

## 日本ウェルネス歯科衛生専門学校 2023年度学校関係者評価 報告書

学校法人タイケン学園 日本ウェルネス歯科衛生専門学校関係者評価委員会は、「2022年度自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 開催日時 2023年6月5日(月) 19:00~20:00(対面・オンライン)

2. 学校関係者評価委員(五十音順)

倉俣 弥沙	平成27年度卒業生
下山 和弘	東京医科歯科大学名誉教授
田中 入	朝霞地区歯科医師会 理事
長谷 誠	ファイン矯正歯科 院長

事務局

落合 邦康	日本ウェルネス歯科衛生専門学校 校長
大川 浩子	日本ウェルネス歯科衛生専門学校 事務長
渡辺 節子	日本ウェルネス歯科衛生専門学校 歯科衛生士科Ⅰ部教務主任
猪島 恵美子	日本ウェルネス歯科衛生専門学校 歯科衛生士科Ⅱ部教務主任
清水 秀子	日本ウェルネス歯科衛生専門学校 教務

3. 学校関係者評価委員会議事概要

2022年度自己評価報告書および2023年度新カリキュラムを事前配布の上、自己評価報告書内容にもとづき説明し、評価・意見を聞いた。

評価項目	評価・意見	今後の改善方策
1. 教育理念・目標	自主的、主体的に学ぶ姿勢を持ち、思いやりの心を持った歯科衛生士の育成を掲げており、目標にあった教育がほぼ出来ているので評価する。	思いやりの心を育成するには、日々の関わりが大切になる為、教職員の対応等を常に指摘し合うように取り組んでいる。コロナ禍では少し薄れた感じはあったが、現在は今まで通り順調すすんでいる。
2. 学校運営	学園の事業計画に基づき適切に学校運営されているので問題はないです。	先を見越した考えで、情報システム化など学園全体で取り組んでいる。
3. 教育活動	<p>昨年同様、卒業生は就職先から高評価を得ている。特に社会性、人間性の部分での評価が高い。</p> <p>2023年度からのカリキュラム変更は総時間数が減っているが大丈夫か。</p>	<p>就職先からの評価は非常にありがたい。教職員が出来ていなければ学生にいい教育はできないという学園の考えに基づき、今後も姿勢を正していく。</p> <p>総時間数の変更は各科目の必要時間はしっかりととり、なおかつ、学習成果が上がらない学生のフォローをすることを目的として変更したもの。2023年度から実施し、成果を見つつ、必要であれば微調整をしていく。</p>
4. 学修成果	<p>2022年度は目指していた全員卒業、全員受験ができたことは評価する。結果は72人受験、70人合格。不合格だった2名のフォローはできるのか。</p> <p>2022年前期まではオンライン授業が多かったが、その弊害はなかったか。</p>	<p>10月からの国試対策授業に無料で参加できるようになっているので、フォローをしっかりと行っていく。</p> <p>2022年度前期までは対面とオンラインで授業行ってきた。後期からは対面で授業を行ってきたが、本人および家族のコロナ感染により公欠も相次ぎ、ハイブリッド形式で行うことも多かった。</p> <p>学生個々の理解度、心の動きなど顔をみて話すとわかることが把握できないことも多かった。</p> <p>直接関係があるかは微妙であるが、歯科衛生士科I部(昼)は退学者が増えた。2023年度からは通常に戻っている。</p>

5. 学生支援	コロナ禍で厳しかった家庭の経済面の問題は改善されてきたか。	保護者の仕事が順調になりつつあり改善されてきた。学費の分納、延納は継続して行っている。また、未納が続く場合は保護者と話し、無理のない方法を提案している。
6. 教育環境	施設・設備は整っており、問題ない。 Web 授業の活用を高めてきているが、ネット環境を整えていく必要がある。	ネット環境が不安定になってきたので、現在改善すべく依頼中である。
7. 学生の受け入れ募集	学生募集、入学選考は今年度も適切に行われている。 入学者は目的意識をしっかりと持ったうえで入学しているか。	入学のミスマッチをなくす為、学校説明会で高校生、保護者に対して複数の学校を比較検討して選択する等の話をしている。しかし、目的意識を持っているかは難しい。入試面接でも質問をしているが、一応明確な返答をしているが、入学後、そうでないことが判明、気持ちは他に向いていることも多々ある。オープンキャンパスの段階でもう少し理解してもらうような方法を考えていく。
8. 財務	健全な運営がなされていて、問題ない。	問題なし。
9. 法令等の遵守	自己評価のとおり、適切に遵守されていて問題ない。	問題なし。
10. 社会貢献・地域貢献	保育園や小学校での校外活動、歯科のイベントに地域住民、近隣の福祉施設通所者等を招待しているなど、特に問題ない。	2023年度は地域の方も参加できる講演も校内で行う予定である。
11. 国際交流	学校法人の教育理念に「グローバルな人材育成」が掲げられており、留学生の受け入れもして、就職も出来ているので問題はない。現在は日本語学校からの入学者を受け入れているが、今後、海外からの直接入学を受け入れていくのか。	学園の国際交流部と連携をとりながら進めていく。 現在、2年生に中国からの留学生、3年生にベトナムからの留学生が在籍している。 日本語学校を経由しなくても受け入れることは可能。しかし、臨床実習における患者様に対するコミュニケーション能力を考えると慎重に選考しなければならない。